連合会だより

髙成田　健

小規模多機能自治という、概ね小学校区などの単位で「地域自治協議会」や「まちづくり協議会」と称する住民による地域運営組織の結成や再編を促し、そこに財源等を委譲し、地域の主体性を発揮していこうとする政策が全国各地で広がりつつあり、そのような取り組みに挑戦する全国各地の自治体や活動団体とのネットワーク「小規模多機能自治推進ネットワーク」の「自治の集い2023」が、日本労働者協同組合連合会(以下、連合会)の本部会議室にて開催された(10/4-5)。労働者協同組合の活用事例を報告する機会を得て、厚生労働省労働者協同組合業務室の水野室長及び連合会古村理事長より法律の概要や活用事例や可能性について話された。地域自治協議会やまちづくり協議会が法人格を持って事業を行う、或いは協同労働の働き方を活用して活動を活性化させるなどの可能性につながればと願う。

厚生労働省の労働者協同組合周知セミナーを今年度は２回開催するのに加え、オンラインセミナーによるフォローアップも企画され、１回目が開催された(10/29)。連合会も後援として協力。厚労省水野室長の挨拶、連合会古村理事長より「労働者協同組合法の概要」、同連合会労協業務室富澤副室長より「労働者協同組合設立の手順・法人取得の流れ」を話し、その後は３つのグループに分かれて設立相談・交流会も少人数で話し合い、具体的な設立のプロセスや税金についてなど詳細に深め合うことができた。

連合会でも、研修・教育委員会や理事会等の企画委員会の活動が動きはじめる。加盟組織の相互の活動を学び合い交流を図る「加盟組織研修交流会」は、新しく連合会に加わったプラスチックフリー普及協会で開催(10/16-17)。初日は参加加盟組織同士の活動の共有や気候環境危機についてプラスチックフリー普及協会の武本匡弘さんより学ぶ。また同協会が運営するエコストアパパラギで、プラスチック繊維が流れでない洗濯袋やスポンジ、サランラップに代わる何度も使えるキャップなど、自分たちの生活の中で改善できる商品を参加者が思い思いに購入。２日目には、パパラギのヨットに乗り海洋調査に。太平洋で採取した海水を調べ、プラスチックスープと呼ばれるほど海が化繊で汚れている実態を目の当たりにする。

協同労働リーダー基礎研修(10/23-24)は、連合会が主催し毎年３回シリーズで開催。10年以上にわたり続いている。第１回目が釧路で開催され、加盟組織のケアワーカーズコープわたすげ、ワーカーズコープ・センター事業団釧路地域福祉事業所より話を伺う。多様な困難を抱えた仲間と共に働く、制度にとどまらず地域のニーズに地域住民とともに応える高齢者サロンや地域食堂などの社会連帯活動、社会の矛盾に対し

て文句を言うだけではない自らが行動して地域を変えていくフードバンクなどの活動など、多くの協同労働による実践に、参加した仲間が衝撃を受け変わっていく。研修は実践を直接学び、そして自らの組織に戻って実践する中で、その成果や課題を再度持ち寄り集まる。多くの研修修了者が各加盟組織で現在リーダーを担い、また組織を超えて連絡を取り合う。

連合会として、これまで長年労働者協同組合に取り組んできた団体、そして新たに労働者協同組合を立ち上げて連合会に加わった団体が入り混じるなか、新たな連合会づくりに入る。